



分子イメージング連携特別講義



“Drug development and pharmaceutical production in pharmaceutical company”(仮題)

Dr. Rossen Boev, M.D.

Global Medical Director Allergy,
UCB Group

Rossen Boev先生はアレルギー学の専門家で、現在は製薬企業内において、世界中で実施されているアレルギー治療薬の臨床試験の統括をしておられます。本講義では、治療薬の開発から臨床試験に至る大きな流れについて、製薬企業の立場からお話しいただく予定です。また薬剤製造工程に関する情報提供も予定されています。ふるってご参加下さい。

日時:平成26年10月 6日(月)16:30-17:15

場所:サイクロトン・RIセンター
分子イメージング棟講義室

連絡先:サイクロトン・RIセンター
田代学、渡部浩司(717-7797、7803)



分子イメージング連携特別講義



PETによるdopamine transporter imaging radioligandの [¹¹C]PE2Iと[¹⁸F]FE-PE2Iのtracer kineticsの相違と問題点

小田野 行男 博士

仙台画像検診クリニック・分子画像医学研究部長
カロリンスカ大学精神神経科・研究アドバイザー

小田野行男先生は、脳分子イメージングの専門家で、現在、本センターの研究教授にもご就任いただいております。本講義では、神経受容体イメージングの歴史と方法論について概説していただきます。さらにドパミントランスポーター・イメージング薬剤として注目されてきた[¹¹C]PE2Iおよびそのフッ素標識体[¹⁸F]FE-PE2Iの体内動態の違いに着目して、実際のご経験についてお話しいただきます。ふるってご参加下さい。

日時：平成26年10月20日(月)16:30-17:30

場所：サイクロトロン・RIセンター
分子イメージング棟講義室

連絡先：サイクロトロン・RIセンター
田代学、渡部浩司(717-7797、7803)